

平成21年度

まちづくり部ビジョン

# まちづくり部のスローガン

まちづくり部元年

## 和 顔 愛 語

やさしい心で やさしい笑顔で やさしい言葉で

職員一丸となってまちづくりを推進します。

# まちづくり部の目標

地域に開かれたまちづくり

地域の特性をいかしたまちづくり

地域経営の視点に立ったまちづくり



地域の元気を推進します。

# まちづくり部の目標

## (個別の推進目標)

小さな市役所構想3年目の評価・検証と今後の方向性の検討  
生涯学習の成果を地域で発揮できるトータルなしくみづくりの構築  
公共交通実施計画の仕上げとフォローアップ  
生涯スポーツ・レクリエーションの推進  
多様なスポーツに対応できる体育施設環境の整備  
競技スポーツのレベルアップ  
地域に親しまれる魅力ある芸術文化施設づくり  
地域文化を大切にしたまちづくりの推進など

強くてやさしいまち 市民参画・協働  
岩手No.1のまちづくりを目指します。

# 現状及び課題

## 1 小さな市役所構想

27とおりの地域づくりが着実に進展しています。

しかし、地域によっては、十分な参画が行われていないことや、後継者に不安が残るコミュニティ会議もあります。

また、将来的な地域づくり交付金(総額2億円)の配分や振興センター職員の配置(人数)、エリアの見直しなどの方向性への検討課題もあります。

# 現状及び課題

## 2 生涯学習

生涯学習と地域づくりが組織的に一体化したことをふまえ、これまでの花巻の生涯学習をさらに充実させるため、各施設の生涯学習施設や振興センターにおける生涯学習のすそ野拡大を進めるとともに、学習の成果を地域づくりに還元できる人材活用などトータルな仕組みづくりが求められています。

# 現状及び課題

## 3 スポーツ振興

多くのスポーツ施設を抱え、生涯スポーツ、地域に開かれた施設運営などの検証や今後開催が予定されているインターハイ、国体などへの対応が迫られています。

さらには、これら大会に対応した施設整備等の検討、「スポーツ振興計画」との整合性などを意識する必要があります。（例えば、総合体育館第2体育館の建設や施設の多目的な活用、施設の老朽化への対応など）。

また、まちづくりの推進をはかるため地域に根ざした生涯スポーツやコミュニティ会議との関わりも必要です。（参画と協働）

# 現状及び課題

## 4 芸術文化振興など

企画展の運営や施設運営にあたり、教育委員会から市長部局に移行したことをふまえ、より身近に地域に根ざしたあるいは溶け込んだ運営方法を検討する必要があります。

また、地域のコミュニティ会議との共催事業や、無料開放日の設定、共通券の発行など、観光的な側面も視野に連携事業の取り組みが必要です。

さらには、老朽化した施設もあり、大規模改修か建替かなど長期的な「館の経営」を意識した取り組み検討が必要です。

# 具体的な取り組み方針

## 地域づくり課・振興センター・教育機関・文化施設関係

地域づくり交付金の配分見直し(コミュニティ会議3年目の成果と検証)

7月から9月にかけて27コミュニティ会議との意見交換の実施

移動局長会議の開催と振興センター職員の交流研修(職員の意識活性化)

地域元気フェスティバルの開催(コミュニティ会議の市民周知と活動発表)

東和地域、大迫地域の公共交通実施計画の策定と平成21年度実施事業の検証

生涯学習振興計画のフォローアップと振興センター地域における裾野の拡大  
(参画・協働の視点)

芸術文化施設にかかる運営等の見直し

- ・各施設の点検と市民や来館者の目線及び企画運営等の見直し
- ・館運営にあたっては常に経営感覚を持ち、市民やお客様の目線で
- ・館の方向性の検討(大規模改修か、建替か、直営か委託かなど)
- ・地域に愛される館運営(地域への無料開放やコミュニティ会議との事業連携など)



カーブミラー修繕（花南）

## ふるさとカルタ大会（大迫）



# 具体的な取り組み方針

## スポーツ振興関係

体育関連団体と連携した生涯スポーツ振興の推進を図る。

(ニュースポーツ等の機会拡大や振興センターやコミュニティ会議等を核とする生涯スポーツの推進)

総合体育館、第2体育館建設に向けて準備を進めるとともに、施設ごとに利用状況の検証を行い、利用時間の見直しを含め市民の利用促進を図る。

利用申し込みをウェブで出来るなど、気軽に手続きできるシステムを構築するオフシーズンの利用が可能にするための方策を検討する。

市体育協会や競技別協会等との連携を図りながら、競技スポーツのレベルアップに努める。

子供スポーツ活動の向上を図るため、学校と地域社会、各種スポーツ団体との連携を図り安定した指導体制を推進する必要がある。

インターハイや国体への着実な準備を進める。



(参考)

## 平成20年度コミュニティ会議との意見交換会の集約結果

### これまでの評価

- ・ 身近な課題解決が進み、高評価を得ることができた。
- ・ その結果を反映し、全てのコミュニティ会議が交付金の継続を希望し、増額を希望するところも10団体にのぼった。
- ・ ただし、地域課題の把握等への住民参画が不十分で交付金の消化に追われ、評価に至らなかった団体も見られた。

### 交付金の配分

- ・ 現在の配分方法で妥当とする意見は8団体だった。
- ・ 道路等の施設整備状況を反映させるべきという意見が4団体からあったほか、ハード事業実施のために増額を希望する団体が多かった。

### 事業内容と取り組み方

- ・ 道路舗装、側溝(蓋)整備、防犯灯設置等のハード事業中心に実施した団体から、高齢者対策、世代間交流等のソフト事業中心に実施した団体、それをミックスして実施した団体に分かれた。
- ・ 全世帯アンケート、自治会単位での話し合い等で地域課題を把握し、その解決に取り組んだ19団体では、ソフト事業に積極的に取り組んでいる。
- ・ 一方、課題把握が不十分なまま、役員会や地域代表者から「事業提案」を集めて取り組む、特に、ハード事業に偏って実施している団体もある。
- ・ 部会活動の活発・不活発によっても同様の傾向が見られる。

## 協働

- ・ ソフト事業は活発な協働で行われている。
- ・ ハード事業について、住民参画が進んだ地域では、道路舗装、側溝(蓋)設置等の作業に住民が協働しているが、そうでないところでは一括請負に出し、協働が進んでいない。

## 後継者

- ・ 全世帯アンケート、自治会単位での話し合い、部会活動等が活発な団体では、後継者の育成が始まっている。
- ・ 特に、大迫地区コミュニティ振興会では、若手事務局長のもとに各部会に若手事務局員2名ずつを配置し、活動を通じて次世代の育成に取り組んでいる。太田、大瀬川でも、ビジョン策定委員会を次世代主体で編成している。

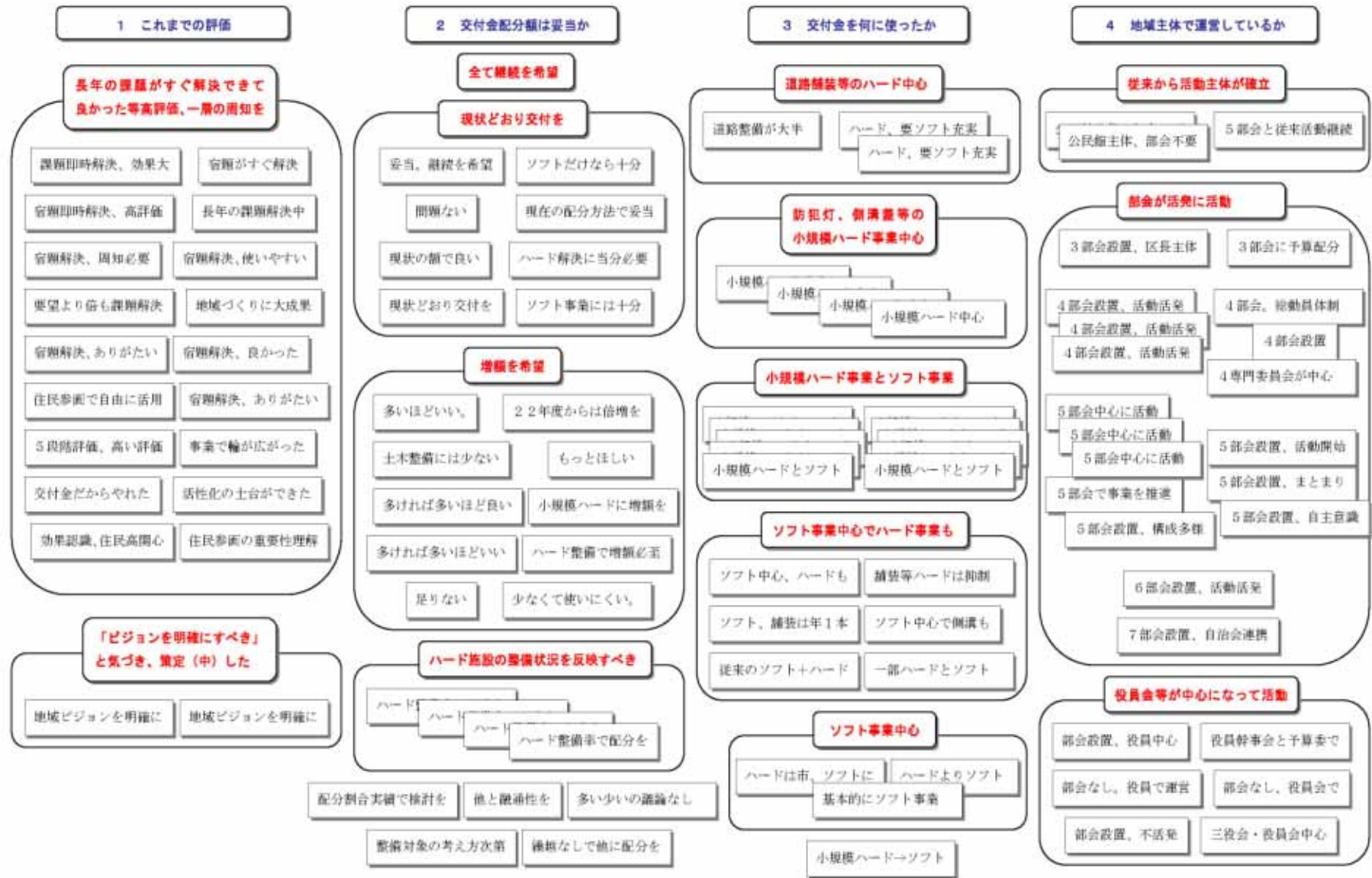
## 振興センターによる支援

- ・ 「この人達がいたからできた」など、その支援あっての成果であり、今後も継続を強く要望する意見が20団体から寄せられた。  
ただし、ごく一部ながら、コミュニティ会議との一体感が不足しているセンターが見られた。

## その他

- ・ 役員報酬のあり方について、会長以外の役員への支出、会長報酬額の統一等の意見があった。
- ・ コミュニティ会議・自治会(自治公民館)・行政区長の関係について調整を望む意見があった。
- ・ 石鳥谷生涯学習会館の機能が低下したことに不満があった。
- ・ 市役所の対応に不満があった。(市への要望について回答がない、市事業を「コミュニティ会議でやれ」と振ることなど。)
- ・ 地元の職員がコミュニティ会議の役員等として積極的に参画し、好評を得ているところも。

コミュニティ会議との意見交換結果整理図（1）



コミュニティ会議との意見交換結果整理図（2）

